

令和3年（2021年）7月

教育実習生の感想（追補）

（実習生 C さん）

私は中学生の頃から教師になるのが夢でした。実習が始まる前は不安と緊張でいっぱいでしたが、始めてみると授業も SHR もとても楽しかったです。楽しめたのは、深志の先生が親切にしてくれ、生徒の皆さんが私の授業を真面目に受けてくれたおかげです。中学生の頃からの夢に1歩近づいた実習でした。夢に向かってこれからも頑張ります。ありがとうございました！

（実習生 D さん）

今回、2週間という短い期間でしたが母校である松本深志高等学校に教育実習をさせてもらいに行きました。いくら深志の卒業生といえどそれは5年も前の話であり、僕が在籍していた頃とはやはり違うのだろうな、と不安を感じていました。しかし深志の門をくぐってみると、深志の校舎が5年前のそのままの姿で迎えてくれました。当時のクラス担任の先生や部活の顧問の先生こそ残念ながらいらっしゃらなかったのですが、先生や生徒は変わっても深志の学級の雰囲気は変わらず、非常に安心したことを覚えています。

ただ、授業が始まってしまえば話は別で、数十名の生徒からの視線に非常に緊張しました。一番初めの授業などは緊張で小声かつ早口となってしまう、我ながらひどい授業をしてしまい、その時の生徒たちには申し訳ない気持ちでいっぱいです。ただ、何回も授業をするうちにその緊張にも慣れ、授業を改善させていくことができるようになっていきました。特に、知識の伝達のための授業よりも実験や実演などを織り交ぜた授業の方が生徒たちはよく注意をこちらに向けてくれることに気づいてからは、できるだけ毎回簡単な実験もしくは実演をして生徒に教科書の内容を実感として捉えてもらうように授業を組み立てました。その点、幸運にも僕の実習教科は理科だったので実験がやりやすい科目でした。このようにして、段々と改善していったので最後の方の授業では（現役の先生方からみればまだまだでも）自分なりに良い授業ができたように思います。

以上のように試行錯誤の授業を繰り返したこの2週間は長いようであつという間に過ぎてしまいました。今回の教育実習では授業の方を主に指導していただきましたが、それだけでも実習前に予想していたよりも非常に大変でした。教師という職業の大変さとやりがいの一端を感じることができました。この短い実習での得難い経験を無駄にせず、教師を目指しさらに成長していきたいと思っています。

（実習生 E さん）

教育実習で感じたことは、深志生が非常に優秀であるということです。自分なりに、一生懸命に教材研究に取り組んで授業に臨みましたが、説明が不十分だった箇所への的確な質問や、思いもよらない視点からの指摘を受けることがありました。また、教える中での吸収も早く、生徒たちの能力に大いに助けられました。

これからやりたいことですが、教師になる夢を叶えるべく、いっそう勉学に邁進してまいります。また、教育方法という観点では、今回実践した教え方に固執せず、生徒のニーズに合わせた柔軟な指導を展開する工夫を、常に模索していきたいと考えています。